

凌和電子株式会社

環境・安全報告書

Environmental and Safety Report

2021

CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 基本理念	3

Environmental

4. 環境マネジメントシステム	4
5. 2020年度環境目標及び活動実績	5
6. 環境配慮型製品の提供	6
7. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移 個別のエネルギー使用の内訳	7
8. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	8
9. 環境教育	9
10. 環境監査	10
11. 環境リスクマネジメント	11
12. 環境コミュニケーション	12
13. 地域貢献・工場独自の活動	13-14

Safety

14. 安全衛生管理	15-16
15. 会社概要	17
16. 環境負荷マスマランス	18

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以来、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。

今回は16年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、BCP、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」「工場独自活動」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン」を参考としています。また、弊社ホームページからもご覧いただけます。

報告対象範囲

●報告対象期間
2020年7月1日～2021年6月30日
(2020年度)

●報告対象
凌和電子株式会社
〔本社、本社工場、元町工場、
山形工場、一関システムセンター〕

感謝と前進

凌和電子の次なる50年に向けて
創造と奉仕の精神で日々研鑽を
積んで参ります。



環境・安全報告書2021年版を発行するにあたり
一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、この度の新型コロナウイルス感染症により亡く
なられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、罹
患された方々とそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し
上げます。また、医療機関や行政機関をはじめ、感染
拡大防止に向けご尽力されている皆様に深く敬意を表
します。

新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの生活や
経済活動は大きく制約され、生活様式も大きく変わりました。日本全体でGDPが落ち込む中、当社に関連する国内設備投資の状況も製造業を中心に厳しい経営環境が続いております。そのような中で、企業の持続的な発展と持続可能な社会を築いていくために、環境に対する視点は必要不可欠であると考えております。

お客様に選ばれる製品となるには、効率アップと環境改善に寄与できるものであることが重要です。コロナ禍によりデジタル化がさらに加速すると思われる中、当社の製品がお客様の助力となることを目指し、日々技術力を磨いてまいります。

また、SDGs(持続可能な開発目標)という言葉が世界的な広がりを見せ、高い関心が寄せられています。設定された17のゴールには、当社の環境活動にも通じる部分が多くあり、今年度からはSDGsとの関連も併記して報告させていただいております。

本報告書は当社の地球環境保全や安全衛生への取り組み、2020年度の活動実績をまとめたものです。目まぐるしく状況が変化していく世の中においてトレンドを見極め、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。今後ともより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年10月1日

凌和電子株式会社 代表取締役社長

安藤仁司

●基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に展開しています。なお、2017年7月に新たな中期経営方針(5年毎)を定め展開しています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

1. 規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
2. 新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
3. 改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
4. 当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
5. 顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

感謝と前進

～凌和電子50年の歩みの総仕上げと
次なる50年に向けての新たな取り組み～

1.更なる経営の充実

～収益性の追求とコンプライアンスの徹底～

- ◆財務体質の強化
- ◆付加価値生産性の向上
- ◆社内諸規則の改正

2.事業体制の適正化

～リソースの再配置とコア事業・
新規事業の見直し～

- ◆生産体制の見直し
- ◆SBUの改編・改組
- ◆営業・生産の連携強化

3.先見性ある技術開発と事業展開

～市場動向の把握と顧客要求の実現～

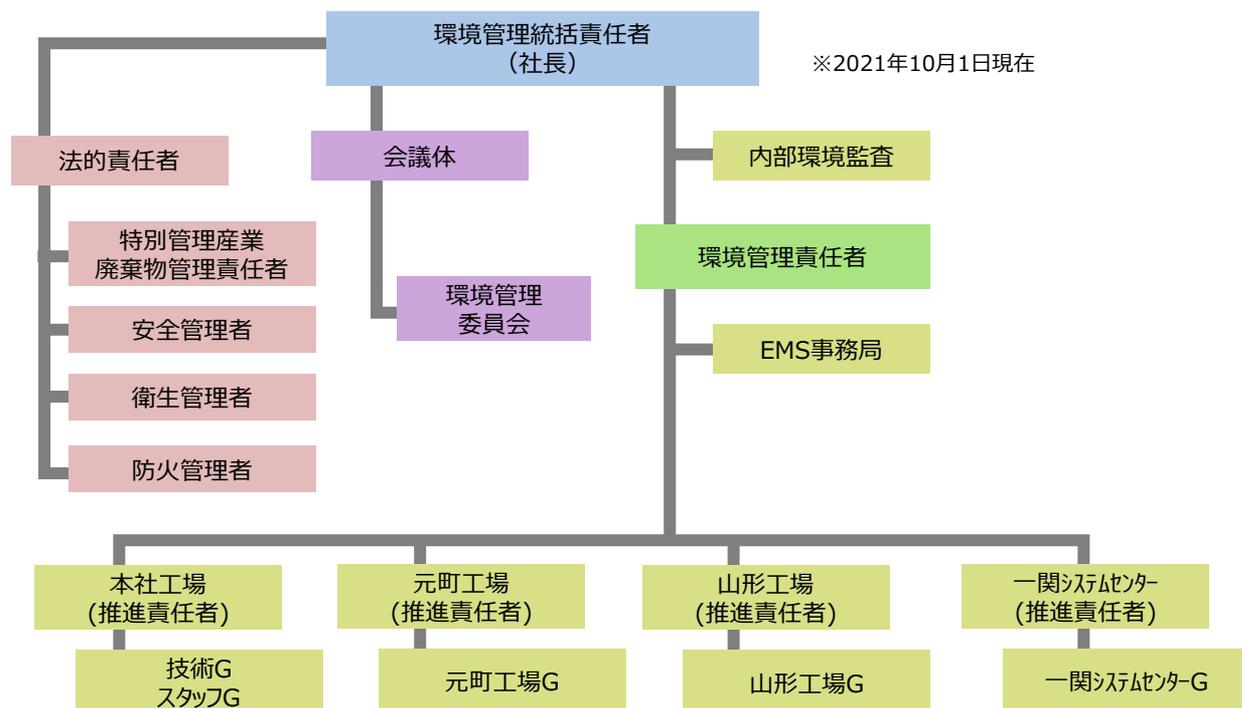
- ◆自社製品の拡充
- ◆3事業の事業具体化
- ◆新分野への積極展開

4.その他各部門の独自施策

環境マネジメントシステム

当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。各工場には推進責任者を置き、活動の取りまとめを行っています。

● 環境管理体制



● 持続可能な開発目標(SDGs)

2015年、国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。これは、2030年に向けた持続可能な開発に関する17の目標と169のターゲットからなり、全世界が取り組むことによって、より良い国際社会の実現を目指すものです。当社も社会の一員として、SDGsを意識しながらCSR活動に取り組んでいます。



● ISO14001(2015)認証維持

2020年10月にISO2015年版の更新審査を受け、認証維持となりました。

適用範囲：

- ・本社、本社工場(宮城県仙台市若林区南材木町48)
- ・元町工場(宮城県仙台市若林区六丁の目元町9-2)
- ・山形工場(山形県山形市高原町1483-1)
- ・一関SC(岩手県一関市東台14番地43 サンリツ倉庫4階)

認証登録機関：

Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.

認証登録番号：

4564350



2020年度環境目標及び環境実績

当社は、中期計画に基づいた環境マネジメントプログラムを策定しています。活動は2種類あり、改善を目指す“改善活動”と社員に定着した“維持活動”に各項目を分けています。メリハリをつけながら活動をすることで、社員のモチベーションにつなげています。その中でもより密接に業務の中で改善が推進できる「工場独自目標」の充実と、「ライフサイクルの視点」を意識した活動を展開しています。

● 2020年度活動実績(報告範囲：本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

中期計画に基づき、全社目標として改善項目2項目、維持項目5項目を掲げています。結果として各工場とも目標達成、または指標値以内となりました。すべての項目において100%以上を達成することができましたが、人数原単位で増加した項目については、基準年に比べ従業員数が減少していることも一因となっています。また、少なからずコロナ禍の影響もあるものと見ております。

評価基準

◎：中期計画をクリア ○：計画対比100%以上達成 △：90%以上達成 ×：90%未満

実績算出

実績値(%)：2020年度計画対比/□は同原単位比(人員ベース)

No.	項目	関連するSDGs項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
			中期計画 2021年度	年度計画 2020年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供		全製品環境配慮型化の推進継続	新規製品Pcスモット100% 環境配慮型製品登録75%以上 自主的RoHS6 14件 RoHS10対応3件	Pcスモット100% 登録100% 自主的RoHS6 16件 RoHS10 3件	○	P.6
2	地球温暖化ガスの排出削減		5か年(12~16年)平均CO2排出実績比△5%以下	5か年(12~16年)平均CO2排出実績比△3%以下	△16.4% 〔△11.7%〕	◎	P.7
3	廃棄物の排出削減(一般廃棄物)		2017年度指標維持継続	5か年(12~16年)平均実績値以下	△37.6% 〔△30.3%〕	◎	P.8
	廃棄物の排出削減(産業廃棄物)		ゼロエミッション維持継続	再資源化率95%	全工場：100%	◎	P.8
4	紙資源の削減(購入量)		2017年度指標維持継続	5か年(12~16年)平均実績値以下	△42.7% 〔△35.4%〕	◎	P.8
	節水活動の推進(水使用量)				△12.7% 〔+0.8%〕	◎	P.8
5	環境リスクの低減		環境コンプライアンスの拡大強化	緊急事態対応訓練の実施	各工場訓練実施	◎	P.11
6	オフィス用品のグリーン調達(調達率)		100%継続	100%継続	100%	◎	-
7	環境コミュニケーション		環境安全報告書発行	環境安全報告書発行 環境コース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	◎	P.12
			エコ生活推進	情報提供(原則隔月)	環境ニュース特集号 8回発行	◎	P.12
			地域・行政への協力	地域・行政への協力3件以上	・Fun to Share参加登録 ・カービズ、ウォーキング運動参加 ・山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録 ・仙台市まち美化サポーター更新・活動 ・エコにこゴールドマイスター認定・更新 他	◎	P.12
			工場独自活動の強化(4件以上/工場)	工場独自活動の強化(部署毎+社会貢献)	全工場実施	◎	P.13~

※No.1、2は改善活動 No.3、4、5、6、7は維持活動

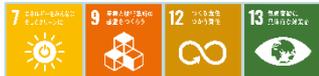
維持活動の管理は指標値を基準として10%増までは管理内とする

※No.1の「自主的RoHS6」とは、客先指定がなくとも自主的にRoHS(6物質)対応とした製品のこと

※工場独自の活動は改善活動とし、P.13以降にご紹介しています

環境配慮型製品の提供

関連するSDGs項目

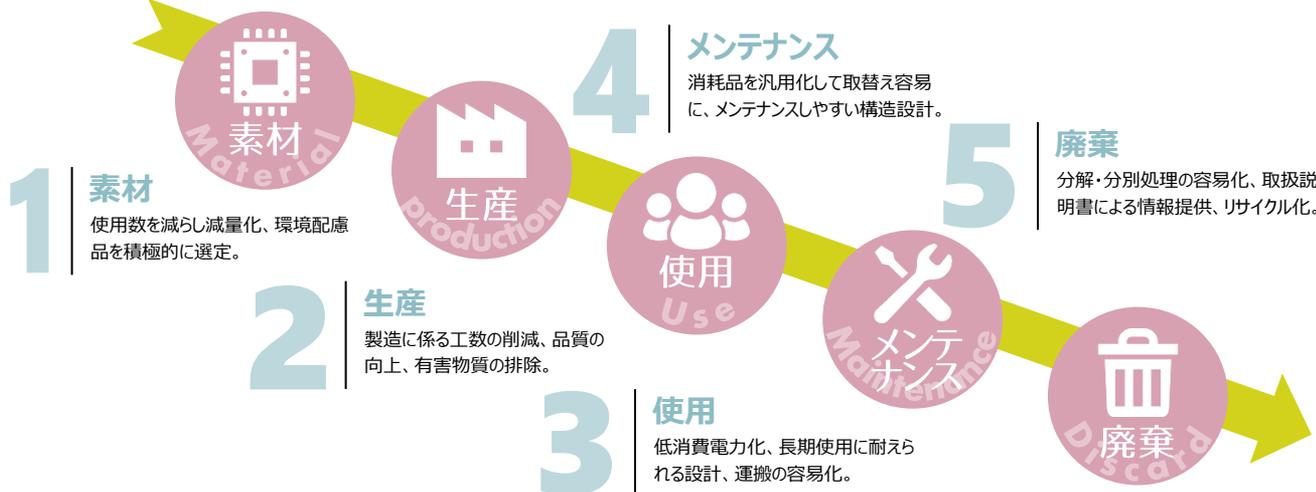


当社では本来業務の中で環境へ配慮した製品の提供を目指し、日々取り組みを進めています。当社の特徴として一品一様の製品が多い中で、製品アセスメント評価を行い、当社の基準の中で環境への配慮が認められたものについては「環境配慮型製品」として登録しています。

FIVE POINT

製品アセスメント5つのポイント

当社は環境配慮型製品を提供するために、新規設計製品はアセスメント評価を行っています。「ライフサイクルの視点」を考慮するための、5つのポイントと併せて現場の声をご紹介します



凌和電子の環境配慮製品事例

電特試験機

ワークへの電気的特性検査装置。

特徴

- ・RoHS(6物質)対応製品
- ・金属リサイクル可能
- ・廃棄時案内、消耗品情報の充実化
- ・キャスト、取っ手により移動の容易化

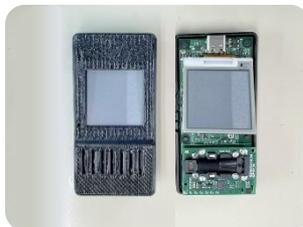


環境モニターデモ機

周囲のCO2濃度、温度/湿度を測定し、3密、熱中症対策する製品

特徴

- ・RoHS(6物質)対応製品
- ・再資源化可能なケース使用
- ・嵌め合わせ構造で分解が容易
- ・当製品使用時の作業効率向上



ダイアライザー断面検査機

ダイアライザーの断面を検査する装置。

特徴

- ・RoHS(6物質)対応製品
- ・金属リサイクル可能
- ・消耗品情報の充実化
- ・キャスト・フックにより移動の容易化



VOICE

多様な視点から環境配慮型へ

環境配慮型製品の創出には、従来の製品の製造から廃棄までを考える「製品のライフサイクルの視点」に加えて「SDGsの視点」も意識しています。特にゴール9「産業と技術革新の基盤を作ろう」やゴール12「つくる責任、つかう責任」に関連は深く、ものづく

りの企業として技術力で持続可能な社会へ貢献していければと考えています。小回りの利く一品一様の受注形態を生かし、多角的な視点からお客様に合った地球にやさしい製品の創出に取り組んでいます。



システム技術課
鈴木 章洋

地球温暖化ガスの排出削減

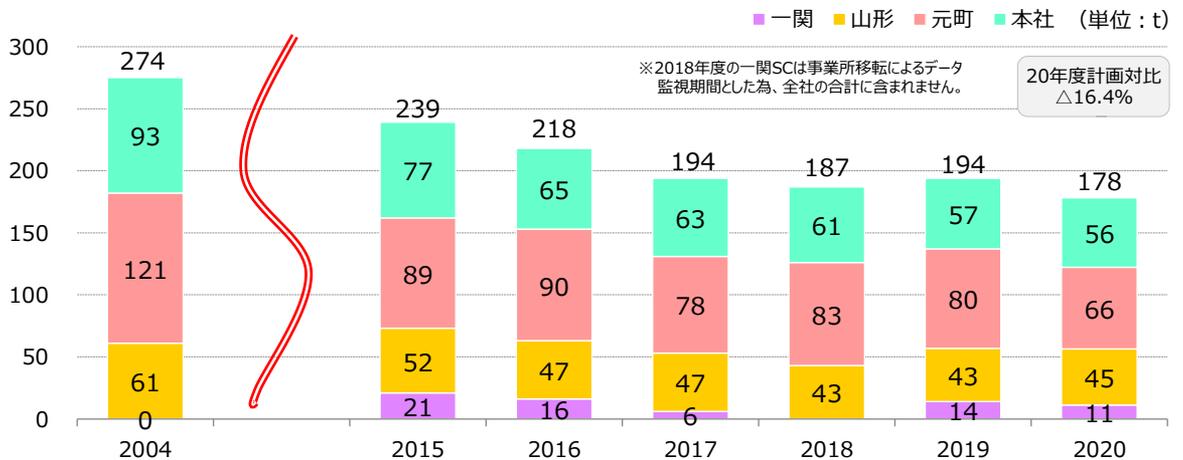
関連するSDGs項目



当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。その中で地球温暖化ガスの削減は世界の課題であり、当社でも削減に取り組んでいます。2020年度の二酸化炭素の排出量は178 tで、計画対比で16.4%の削減が図られました。コロナ禍での「新しい生活様式」が排出削減への一助となっている状況です。



地球温暖化ガスの排出削減推移

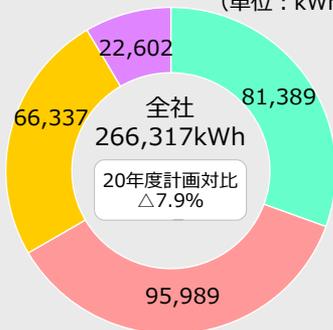


個別のエネルギー使用の内訳

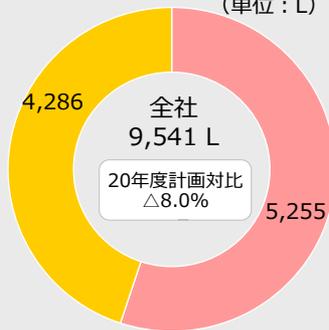
地球温暖化ガスの内訳としては、計画対比で、電気使用量7.9%減、灯油使用量8.0%減、ガソリン使用量31.4%減となりました。

ガソリン使用の大幅減は、昨年から続くコロナ対策によるWeb会議の利用が大きく影響しています。なお、灯油は冬場の暖房にしか使用していません。

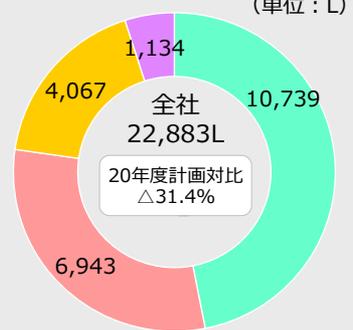
電気使用量の削減 (単位: kWh)



灯油使用量の削減 (単位: L)

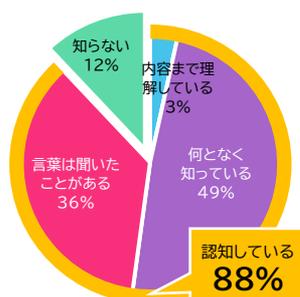


ガソリン使用量の削減 (単位: L)

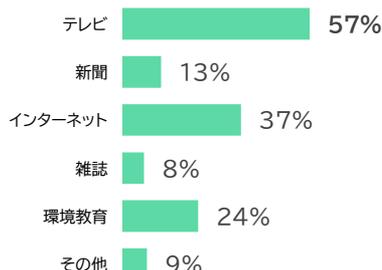


持続可能な開発目標(SDGs)が世界で広がりを見せていますが、全社員への意識調査を7月に実施しました。概ね90%弱の社員が認知はしており、テレビやインターネットの影響が大きいことがわかります。また、No.12

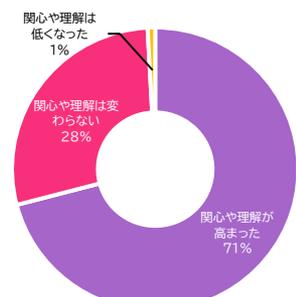
Q1.あなたはSDGsについてどの程度知っていますか？



Q2.あなたはSDGsのことを何で知りましたか？(複数選択可)



Q3. 1年前と比較して企業のSDGsの取組みに対する関心や理解が高まりましたか？



その他の環境負荷低減活動

関連するSDGs項目



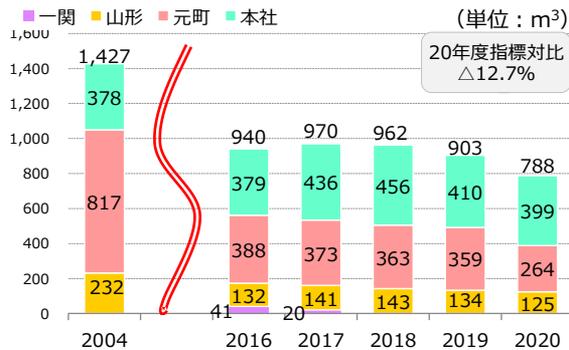
当社では地球温暖化ガスの低減の他、省資源活動と廃棄物の排出削減活動を行っています。これらの活動はすでに社員へ定着したため、維持活動としており、削減状態の維持に努めています。



省資源活動

節水活動の推進

2020年度の水道使用量は788m³で、指標対比△12.7%となりました。基本的に生活系の水使用しかない中での削減となり、節水の徹底が図られています。



紙資源の削減

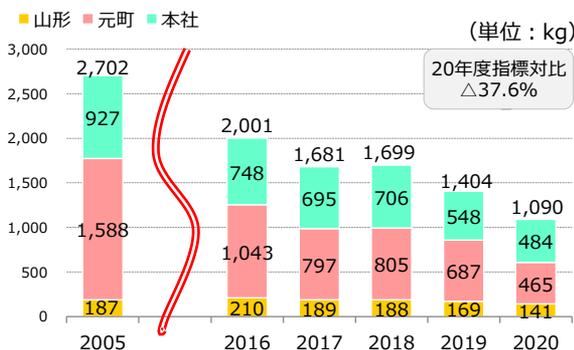
2020年度のコピー用紙等の紙購入量は1,011kgであり、指標対比42.7%の削減となりました。社内外での電子化を進める中で、年々紙使用量は減少傾向となっています。



廃棄物の排出削減

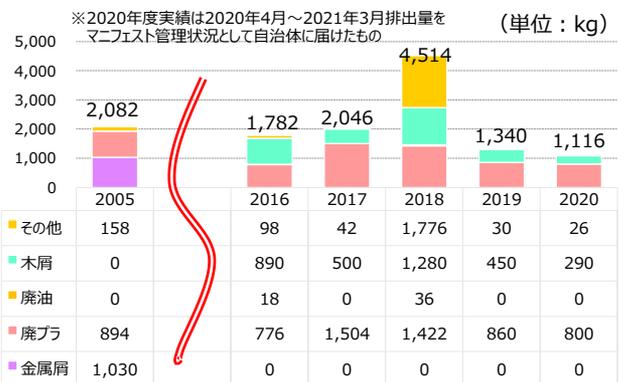
一般廃棄物

2020年度の一般廃棄物排出量は1,090kgとなり、指標対比37.6%減となりました。生産状況により増減するものでもあるため、継続削減維持を目指します。



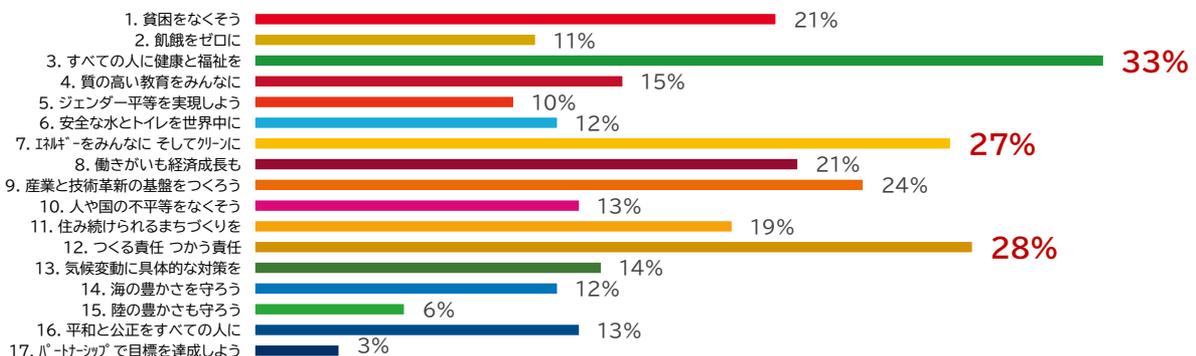
産業廃棄物

2020年度の産業廃棄物の排出量は1,116kgでした。通常時の排出量となり、ほぼ横ばいの推移となっています。



「つくる責任 使う責任」の項目に関心が高いことがわかり、ものづくりの会社として社員一同目標達成への貢献を目指します。

Q4. SDGsの具体的な目標(ゴール)のうち、どの目標に関心がありますか?(3つまで)



環境教育

関連するSDGs項目



当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。コロナ禍においては、今まで集合教育を実施してきたものもWebを活用したリモート教育形式に変更し、定着化してきました。

● 環境教育の実施

※下表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	業務管理課	全社 ~8月11日	3名
管理職・一般社員教育	業務管理課 (推進責任者)	全社 ~8月11日	114名
専門分野別教育			
内部環境監査員フォローアップ教育	業務管理課	全社 8月25日 3月 3日	10名 11名
内部環境監査員養成教育	業務管理課	全社 2月22日	6名
廃棄物管理者養成教育	業務管理課	一関SC 11月18日 山形工場 6月25日	1名 1名

2020年
7月

階層別一般教育

毎年7月に全社員を対象とした教育を実施しています。例年は集合教育を実施していましたが、2020年度は社内Webを利用した学習としました。

2020年度環境・安全衛生研修資料

今年はコロナウイルス感染防止の観点から、集合教育は実施しません。各自自主勉強を実施していただき、理解度確認テストを受けてください。テストをもって2020年度の環境教育を完了とさせていただきます。その他詳細は各工場推進管理責任者の旨

- <環境教育資料>
- ・本社用・・・PDF(4.5MB)
 - ・元明用・・・PDF(4.5MB)
 - ・山形用・・・PDF(4.5MB)
 - ・一関用・・・PDF(4.5MB)
- ※無形研修課の発行日付目録の欄で「一関用」を2

<理解度確認テスト>

- ・【無形】

開示ページと教育資料



2020年度
11月・6月

専門教育 廃棄物管理者養成教育

新たに任命された山形工場・一関SCの廃棄物保管管理者を対象とした教育を行いました。各工場に管理者を置き、確実な管理を行っています。



山形対象(リモート教育)

2020年度
3月・8月

内部環境監査員 フォローアップ教育

内部監査実施前に監査員へ向けたフォローアップ教育を実施しています。2020年度からは品質監査と合同になり、リモートも活用するよう教育しました。



上期教育の様子(リモート含む)

2021年
2月

内部環境監査員 養成教育

内部環境監査員の増員のために、養成教育を実施しました。規格の解説やケーススタディ等で理解を深めました。



(リモート含む)

環境監査

当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

● 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001(2015年版) 更新審査	外部審査機関による ISO14001(2015年版)更新審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査（全職場）	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

2020年
10月

ISO14001(2015)更新審査

2020年10月に受審した更新審査では不適合はなく、認証継続しています。
また、観察事項やアドバイスに関しても積極的に改善に結び付けるために対応しました。



トップインタビュー風景



現場審査(本社)

2020年度
9月・3月

内部環境監査

2020年度からは、環境と品質合同の内部監査に切り替え、上期・下期で年2回の監査を実施しました。
新しくリモートも活用し、改善活動につなげています。



一関(下期)

2020年
10月

環境管理責任者 巡回パトロール

2020年10月に行った環境管理責任者主催の
パトロールでは全ての拠点を回り、環境・品質・安全
の3つの観点から監査を実施しています。



山形

環境リスクマネジメント

関連するSDGs項目



当社では環境負荷の大きな施設・設備や化学物質の取り扱いはありませんが
コンプライアンス意識を持ち、各種活動を行っています。

● 緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。
今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



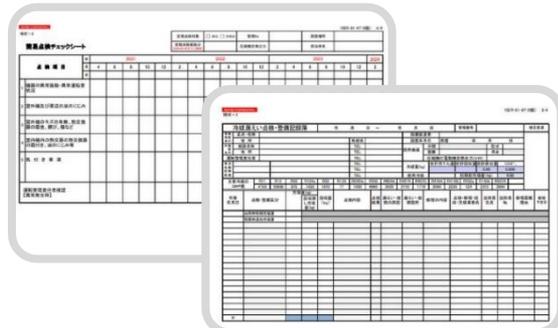
山形

● 第一種特定製品の定期点検・簡易点検実施

当社では、フロン排出抑制法に則り業務用エアコン等の第一種特定製品の「簡易点検」を実施しています。一定規模以上の製品については「定期点検」も実施しており、2021年3月に2回目の定期点検を実施し、問題ないことを確認しました。



定期点検の様子



簡易点検チェックシート、冷媒漏えい点検・整備記録簿

● 法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

● 当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を
確認しています。

環境法規制等一覧			
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 省エネ法 廃棄物処理法 毒物及び劇物取締法	家電リサイクル法 建設リサイクル法 労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法	フロン排出抑制法 自動車リサイクル法 宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 岩手県環境保全条例	仙台市公害防止条例 山形市環境条例 一関市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例 一関市火災予防条例

(努力義務は除く)

環境コミュニケーション

関連するSDGs項目



当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、また社内向けには社内イントラネット、環境安全衛生ニュース(毎月発行)の発行を継続しています。

● 当社のステークホルダー

行政・業界団体

- ・環境安全報告書
- ・ホームページ
- ・活動への参加・協力

取引先

- ・環境安全報告書
- ・お取引様へのお願い

社員

- ・環境安全衛生ニュース
- ・社内Web
- ・環境掲示板

顧客

- ・環境安全報告書
- ・ホームページ

株主

- ・環境安全報告書
- ・株主総会

地域住民

- ・環境安全報告書
- ・ホームページ
- ・地域美化活動



● 情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第16回目となります。

環境ニュース（エコ生活情報）

環境ニュースは、社員への情報提供として視覚的で分かりやすい方法として、月1回の発行を継続しています。

ホームページ/社内イントラネット

当社ホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示するとともに、社内向けにはイントラネットに環境に関わる帳票等を開示しています。

● 地域、行政活動への参加、協力

Fun to Shareへの参加

当社は低炭素社会の実現に向けた国民運動である気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同し、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

エコにごゴールドマイスター

当社は仙台市のエコにごマイスター認定制度に登録し、より積極的に環境活動に取り組む企業として「ゴールドマイスター」の認定を受けました。

山形まるごとCOOL CHOICE事業所

山形工場では、COOL CHOICEに賛同する企業として、山形市の取り組みである「山形まるごとCOOL CHOICE事業所」に登録を行いました。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録証



当社での賛同・登録キャンペーン

地域貢献・工場独自の活動

当社には4つの工場がありますが、それぞれの役割は違います。各工場の各部署が、仕事の中で自主性を持ち、特色ある活動を展開出来る様に独自目標を設定しています。社内だけでなく、お客様の環境改善へ寄与できる製品づくりを目指し、活動を進めています。

HEAD
QUARTERS

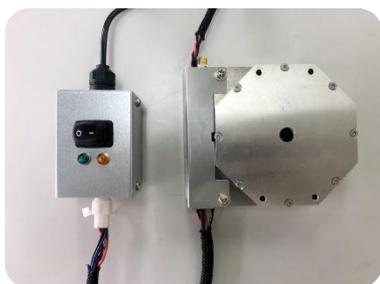
本社・本社工場

本社・本社工場では、購買等のスタッフ業務担当の他、設計・開発等の技術部隊が所属しています。2020年度は購買部門で環境配慮型設計に繋がる部材の情報提供や、製品の使用や廃棄

時にお客様の負荷軽減を目指した開発・設計を実施しています。その他継続登録している仙台市の「エコにこゴールドマイスター」や「まち美化活動」その他社会貢献も継続しています。

開発製品のメンテナンス性向上と省電力化

本社の研究開発を行う部署では、ハード・ソフトそれぞれの面から、メンテナンス性の向上と省電力化に取り組まれました。



製品事例

仙台まち美化活動

本社では工場周辺清掃を継続して実施しています。長年継続活動してきたことにより、昨年は仙台市より感謝状をいただきました。



活動の様子

MOTOMACHI
FACTORY

元町工場

元町工場は仙台の工業団地内にある工場で、設計・製造両方の部隊が所属する工場です。2020年度は製品のライフサイクルに関わるレベルアップを図った他、自社での作業工程の効率化や

業務改善についても取り組み、多角的に環境改善に努めています。社会貢献活動としてはコロナによる中止(インターン・献血等)も発生しましたが、団地内清掃を実施しています。

製作での製品ライフサイクル向上

元町の製造部隊では、製作手法や製作環境を工夫・改善し、製品とインフラのライフサイクル向上に取り組まれました。



活動資料

団地内清掃

元町工場は工業団地にあるため、団地組合での活動に積極的に協力しています。2020年度はコロナの影響もあり、接触型のイベント等は中止となりました。団地内清掃については継続実施しています。



団地内清掃

山形工場

山形工場は、設計・製造両方の部隊が所属しています。2020年度はお客様が当社の製品を使用する中で、消耗品の交換時期を表示する機能を実装する等、製品のライフサイクル改善に取り組

んでいます。また、社会貢献活動としてインターンシップ受入を年2回実施していましたが、こちらもコロナの影響で年1回の受入となりました。

消耗品の交換時期表示機能の実装

山形工場の設計部隊では、装置に消耗品の交換時期を設定できる機能を実装しました。メッセージ表示で故障防止を図りました。



製品表示事例

インターンシップの受入

山形工場では地元の高校生・短期大学生のインターンシップを受け入れています。当社での経験がこの先の就職活動に役立てば幸いです。



実習風景

一関システムセンター

一関システムセンターは設計部隊のみが所属する小規模な事業所です。設備改善や長寿命設計

の他、周辺清掃やエコキャップ運動等の社会貢献活動も、他工場同様に取り組んでいます。

製品の長寿命化設計

エレキ設計時に長寿命・省エネ部品の利用や、盤内放熱考慮の設計を取り入れ改善に繋がりました。



※イメージ画像

工場周辺清掃

社会貢献活動の一つとして、少ない人数ながらも周辺清掃を行っています。



活動の様子



●部材の情報提供

本社購買管理では各業者より新しい部材情報を窓口として入手する機会が多くあります。環境配慮設計を目指す部署へこれらの情報提供を行いました。部材の選択肢を増やすことで、環境性能だけでなく品質向上も図りました。



業務管理課購買管理
●千葉 繁●



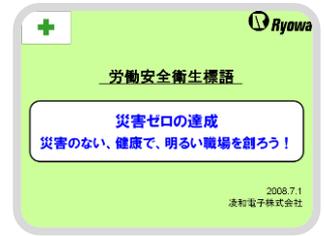
機械技術2課
●石賀 康雄●

●製品の長寿命化設計

機械技術2課では製品の動きを担当する電子制御設計を行っています。お客様に当社の製品を長く使用していただくため、盤内放熱に着目した設計を行いました。温度コントロールをすることで故障率を減らし、長寿命化と併せて省エネ化も図りました。

安全衛生管理

当社は、「災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)」を標語とし、安全衛生計画に則った活動に取り組んでいます。労災ゼロを目指し、職場環境の改善や安全の為に安全衛生委員会を開催しています。また、事業継続計画(BCP)を策定し、社員への展開を図ると共に災害への備えを進めています。



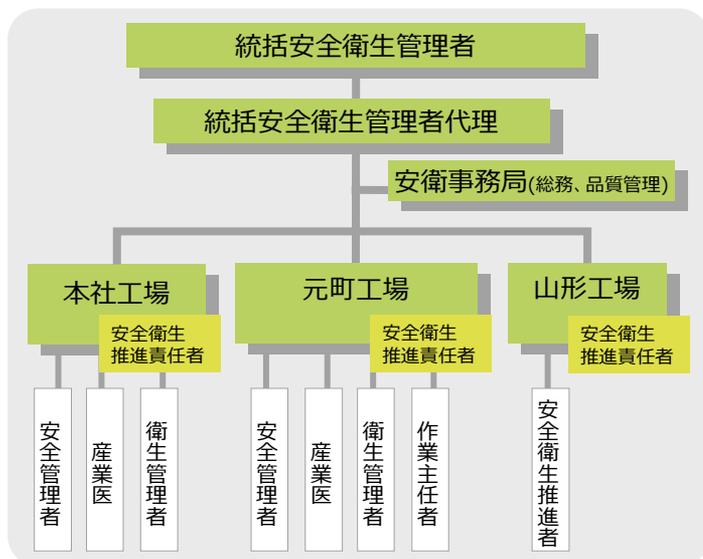
●安全衛生活動計画と実績

2020年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

●安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。



※一関システムセンターは小規模事業所の為対象外としています。

●安全衛生委員会

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会では社員からヒヤリハットをはじめとした様々な意見を吸い上げ、改善を図ります。工場パトロールも隔月実施しています。

対応事例

地震対策

2021年2月13日夜、宮城・福島で最大震度6強を観測する地震が発生しました。東日本大震災から10年となりますが、余震はまだ続いています。当社も多少物の落下等ありましたが、地震対策により被害は少なく済みました。



本社

●健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣病予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2019年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。

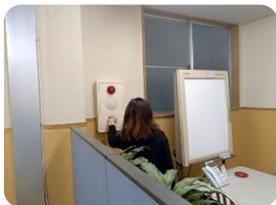
●安全衛生教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。

● 防災訓練

各工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。各地で災害が多発する昨今、事業所の規模に関わらず災害リスクはあるため、一関SC(10名以下の事業所)でも他工場と同様に防災訓練を実施しています。

本社



元町



山形



一関



● BCPの対応

当社では東日本大震災をきっかけに事業継続計画(BCP)を策定し、2013年度より運用を行っています。



防災カード

社員へ配布している防災カードには、災害伝言ダイヤルの使用方法の他、コロナ関係の対応についても記載し、緊急時に参照できるようにしています。

● 応急手当講習会の受講(AED)

当社では社内へのAED(自動体外式除細動器)設置に伴い、応急手当講習会を実施しました。



講習会の様子(元町)



講習会の様子(山形)

INFECTION PREVENTION

新型コロナ感染予防への対応

2020年から急速に広まった新型コロナウイルス。世界中で様々な生活様式の変化が起こり、ワクチン接種も進んでいます。当社も継続的に感染予防対策に努めています。

外来者への感染予防対策の依頼

お客様などの外来者と接触が多く発生する本社の受付では、入室前のアルコール消毒と体温の計測、来社情報の把握にご協力いただいております。



止面玄関



Web会議システムの導入

社内・社外問わず、遠距離の打ち合わせ等にはWeb会議システムを導入し、定着してきました。移動時間の削減と接触回避が図られています。



本社



ヘッドセットの支給



Web会議の活用

新型コロナウイルスの流行以降、営業活動の形は変化がありました。従来のお客様先へ訪問しての打ち合わせは、接触を避ける形でWeb会議となる機会が増えています。当初はWeb独特のタイムラグや話の振り方・進め方に慣れない部分もありましたが、

現在では定着してきました。事前の準備や資料の共有化に工夫をすることで、効率よく打ち合わせが出来るようになりました。環境面では営業活動で使用するガソリンが減り、地球温暖化ガス排出削減へ貢献しています。



営業課
菅原 剛

会社概要

社名 凌和電子株式会社
 創立 昭和47年7月28日
 資本金 7000万円
 役員 代表取締役社長 安藤 仁司
 取締役会長 安藤 正如
 取締役 川田 智
 取締役 木村 恒好
 取締役 板垣 篤
 監査役 大河原 茂紀
 (2021年9月1日現在)

事業内容 計測/検査器設計製作
 計測/検査システム設計製作
 画像検査/処理システム設計製作
 データ収集/管理システム設計製作
 磁気特性計測システム設計製作
 各種プリント基板設計製作
 各種アセンブリ(試作、量産)
 リペア&メンテナンス

沿革 1972 (S47) 凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
 1989 (H 1) 仙台市鶴代町に東部工場開設
 1999 (H11) 山形市高原町に山形工場を建設
 2000 (H12) 仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
 2001 (H13) ISO9001:1994認証取得
 2006 (H18) ISO14001:2004認証取得
 2006 (H18) 東部工場を元町工場に併合
 2009 (H21) 株式会社サンユー技研(山形県長井市)をM&A
 2012 (H24) 一関市狐禅寺に一関システムセンター開設
 2013 (H25) 一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)
 2017 (H29) 一関市東台に一関システムセンター移転

所在地

一関システムセンター

岩手県一関市東台14番地43
 サンリツ倉庫4階



本社・本社工場

仙台市若林区南材木町48番地



山形工場

山形市高原町1483番1号

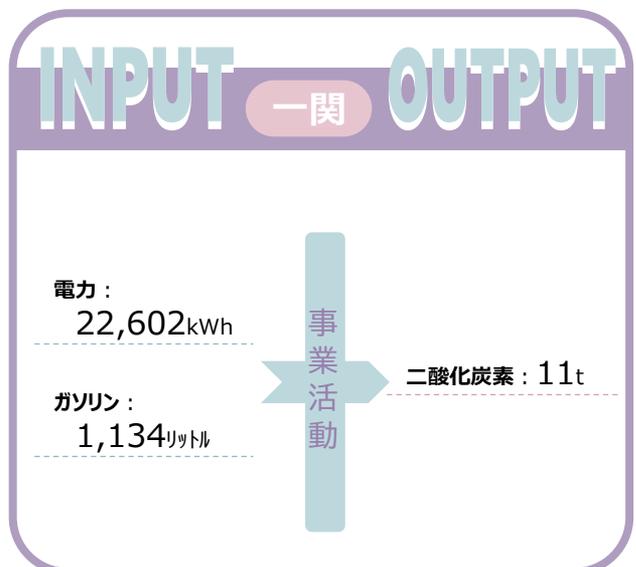
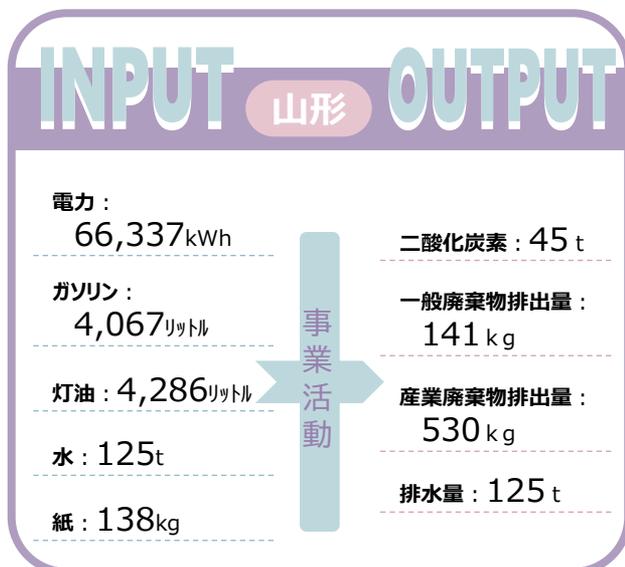
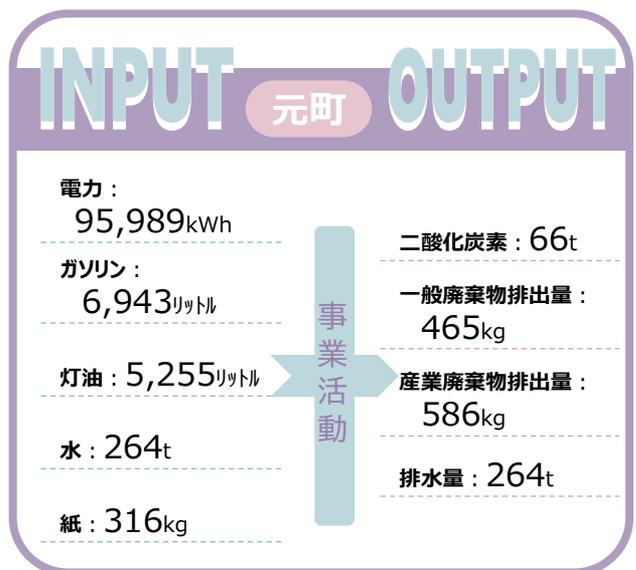
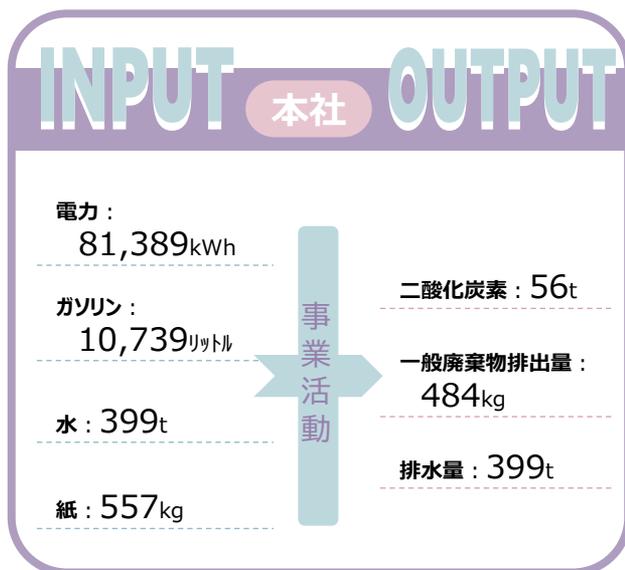
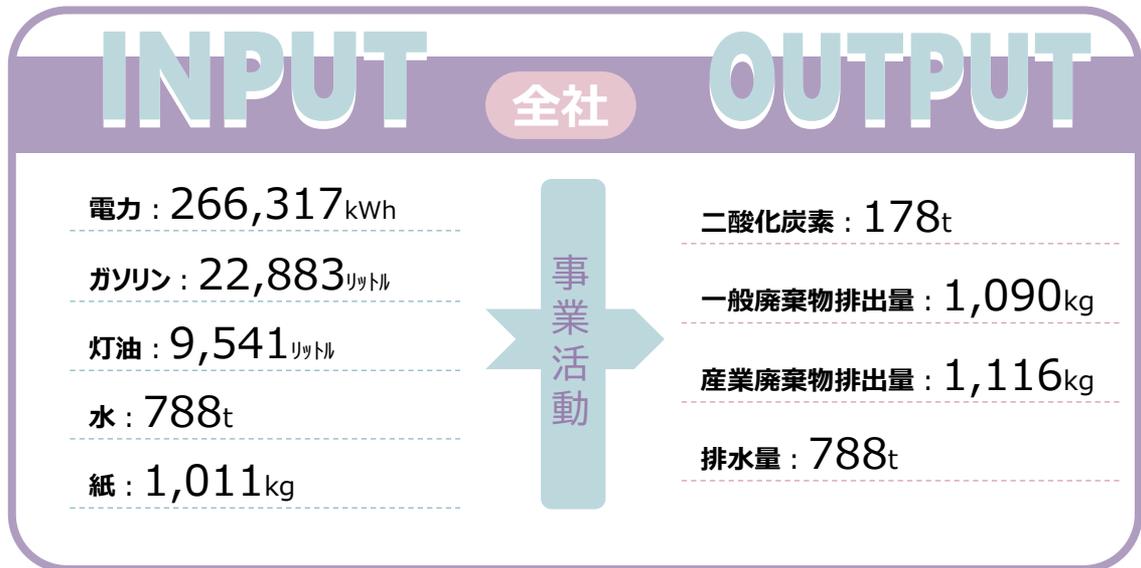


元町工場

仙台市若林区六丁の目元町9番2号



環境負荷マスバランス





凌和電子株式会社

〒984-0805

宮城県仙台市若林区南材木町48番地

URL : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ：業務管理課（飯田・永峯）

TEL:022-266-4188 FAX:022-268-1906

発行：2021年10月 次回発行予定：2022年10月